

schwimmen における完了助動詞選択の変化 ——インターネット上の例文分析——*

岡 本 順 治

0 はじめに

非対格動詞 (unaccusative verbs) は、Perlmutter (1978) の関係文法の中で取りあげられ、Burzio (1986) で生成文法の枠組で、非対格仮説として再度定式化されて以来、さまざまな言語でその妥当性が検討されてきた。そして、他のゲルマン系言語やロマンス系言語の場合と同じように、ドイツ語においても、完了の助動詞に sein 'be' が選択されることが、非対格動詞であることの1つの大きな証拠と見なされている (Haider 1983, 1985, 1993; Fanselow 1987; Grewendorf 1988, 1989; Abraham 1990)。しかし、個別言語間には、ほぼ同じ意味であるにもかかわらず、完了の助動詞選択の範囲が異なる動詞があることも知られている (McClure 1990, Levin/Rappaport Hovav 1995, Alexiadou, A. / E. Anagnostopoulou/M. Everaert 2004)。

当論文で扱うドイツ語の動詞 *schwimmen* 'swim' は、Vendler (1967) の分類に従えば、活動 (activity) と見なされる用法と、一定の時間的プロセスを伴い、目標 (goal) に到達するという「方向性を持った移動」の用法を持つ。後者は、Vendler (1967) の分類では、達成 (accomplishment) に対応する。

- (1) a. Max schwimmt *viel/oft*.
Max swims much/often
'Max swims much/often'
- b. Max schwimmt *ans andere Ufer*.
Max swims to-the other riverside
'Max swims to the other riverside.'

(1) は、動詞 *schwimmen* を使った典型例であり、(1a) は活動、(1b) は達成を表わしている。(1a) における副詞 *viel* 'much'、*oft* 'often' は、動詞の活動の意味を際立たせている。つまり、副詞 *viel* を使えば、「たくさん泳ぐ」という〈泳ぐ行為の量〉にアスペクトの意味を特定化することができるし、副詞 *oft* を使えば、「しょっちゅう泳ぐ」という〈泳ぐ行為の反復性〉にアスペクトの意味を特定化することができる。一方、*ans andere Ufer* 'to the other riverside' は、意味役割としては目標であり、この目標の存在により、結果状態としての移動の場所が表現される。従って、(1b) は、目標を持った移動を表わすと考えられる。

当論文では、(1) の例文を完了形にした際、完了の助動詞が (1a) では、*haben* 'have' になるが、(1b) では *sein* 'be' にになる、という現象を扱う¹⁾。それぞれの完了形の例文を (2) に示す。

- (2) a. Max **hat** *viel/oft* geschwommen.
Max has-AUX much/often swum-pp
'Max has swum much.' or 'Max has often swum.'
- b. Max **ist** *ans andere Ufer* geschwommen.
Max is to-the other riverside swum-pp
'Max has swum to the other riverside.'

当論文では、(2a) タイプの文において、近年、顕著に *sein* が完了の助動詞として多く使われるようになったのではないかと、という疑問²⁾ を、インターネット上のデータ収集により確認し、その理由を考察することを目的とする。すでに、Duden Richtiges und gutes Deutsch (2005: 415)

や吉田 (1999) で指摘されている観察、即ち、「今日では、多くの移動動詞が位置変化が明示されないでも、完了の助動詞 sein を選択する」という観察を検証することにもなる。

以下では、1 で今回のインターネットを使ったデータ検索と検索結果、そしてデータの有効範囲を確認し、2 では、検索結果の分析と評価、3 では、過去のデータと、その位置づけを、主にグリムの辞典 (当論文では、Grimm/Grimm (1984) と表記) や Paul (³1962) などで確認する。また、近年の扱いとしては、Zifonun/Hoffmann/Strecker (1997) や Duden Grammatik (2005) を検討した後で、一部の検索結果を統計処理した結果に基づき、理論的考察を行ない、4 では、schwimmen が「非対格化様態動詞」となっているという提案をする。

1 データ

1.1 検索条件

データは、2006年3月22日 (6:21:01+0900 JST) に Google の検索エンジンを使って収集した。入力データは、“viel geschwommen” とし、検索2語に分割されないように、引用符に入れた。これは、viel ‘much’ と geschwommen ‘swum’ の間に別な語が入らない用例に限定した検索を行なうためでもある。その結果、(3) のように、viel と geschwommen の間に場所を表わす前置詞句などが入るケースは除外されている。

(3) Ich habe/bin früher viel im See geschwommen.

I have/am-AUX earlier much in-the lake swum-PP

また、検索に当たっては、ドイツ語モードでブラウザを動作させ、検索条件を「検索結果をすべて表示する」ようにし、検索対象を「ドイツ語」に限定した。

なお、2006年9月28日 (7:32:16+0900 JST) に、“oft geschwommen” と、2006年9月28日 (7:43:16+0900 JST) に、“Stunden geschwommen”

を検索語として選んだ場合のデータも参考までに収集した。上で述べたように、副詞 *oft* は、動詞のアスペクトを活動に限定する働きがあると考えられ³⁾、*~Stunden* ‘for~hours’ は、継続時間を表わす副詞句となり、活動とは共起しても、達成とは共起しないことが知られている。

1.2 検索結果と後処理

“*viel geschwommen*” を検索した結果、合計 799 件がヒットした。データは 100 件ごとに表示させ、utf-8 コードで保存し、重複データを削除した結果、272 件が完了の助動詞を含むデータとして選別できた。完了の助動詞を含まないような例 (4a)、受動態の例 (4b) は考察の対象から外した⁴⁾。

(4) a. KLUGE. DE - Das Kluge Blog

Zu sagen gibt es allerdings nicht viel. Geschwommen, getaucht, gesonnt. Viel gelesen. Viel geschlafen. Burgen gebaut, Kamele gefüttert - und tatsächlich...

www.kluge.de/2005/10/zurck-gekehrt.html

b. Unbenanntes Dokument

Außerdem wurde von Seiten der SG viel geschwommen - ohne Erfolg. — Wir sind offensiv einfach zu harmlos, das ist in dieser Saison einmal mehr festzustellen...

www.hallo-sonntag.de/redaktion/03_sport.shtml

(下線部は筆者による)

以下に、こうして収集、整理したデータの冒頭の 5 例を以下に示す。LISTE A は、完了の助動詞が *sein* であるリスト、LISTE B は、完了の助動詞が *haben* であるもののリストである。

(sein-1), (sein-2)

LIP 7 Polen

Ich bin viel geschwommen und Musik am Ufer gehört. Meine Cousins sind zu uns gekommen. ... Ich und meine Freundinnen sind so viel geschwommen. ...

ejournal.eduprojects.net/lip7/index.php?action%5B%5D=IArticle

Show:: showArticle (1896)

(sein-3)

LIP 9 Leila

Ich bin in diesen kurzen Sommerferien viel geschwommen ...zum Beispiel bei unserem Sommerhaus, das am Kivijärvissee liegt. Ich und meine beste Freundin Moona...

ejournal.eduprojects.net/lip9/index.php?action%5B%5D=IArticle

Show:: showArticle ('1923')

(sein-4)

Lükentext von JCloze

Ich bin sehr viel geschwommen. Die Kinder spielten im Sand. Hans baute eine Sandburg, und Inge sammelte Muscheln und bunte Steine. ...

people.colgate.edu/dhoffmann/text/Ex200_Folder/Ex126_wclzq.htm

(sein-5)

Indirekte Rede (Zusammenfassung)-126

Er sei sehr viel geschwommen. Die Kinder hätten im Sand gespielt. Hans habe eine Sandburg gebaut, und Inge habe Muscheln und bunte Steine gesammelt. ...

people.colgate.edu/dHoffmann/text/Grammatik200/indirzs.htm

LISTE A

(haben-1)

Cyberdokter. de-Ihre freundliche Patientenberatung. Ein Service...

schwimmen における完了助動詞選択の変化 (岡本)

... Jetzt geht es ihm wieder gut und ist auch sehr in die Größe gewachsen. Er ist sehr aktiv und macht auch viel Sport, hat im Sommer auch sehr viel geschwommen. ...

217.160.111.99:8080/cgi-bin/wwwthreads/showflat.pl?Cat = &Board = Kinder&Number = 4541&page = 18&...

(haben-2)

Plüchhase: "Meereszauber" auf keinverlag.de

"Wie hab ich viel geschwommen..., diese Zeilen sind ganz wunderbar gelungen, ich habe mich sehr gefreut, Dein Gedicht lesen zu dürfen, ich wüsche Dir ein...

www.keinverlag.de/texte.php?text=87866

(haben-3)

Duden-Service

Bei der reinen Vorgangsbeschreibung darf nach dieser traditionellen Regel nur »haben« stehen: »Wir haben [im Sommer] viel geschwommen. ...

www.duden.de/service/newsletterarchiv/2001/010226.html ⁵⁾

(haben-4)

Bodybuilding-Powerlifting - Trainingsersatz

...Wie lange haste gebraucht? Was haste gemacht? also im studio angemeldet bin ich seit 25. 8. 03. hab vorher aber viel geschwommen ca. ...

www.bodybuilding-powerlifting.de/trainingsersatz.html

(haben-5)

Mein Pub: normal madness

Ok, also ich hab nicht so viel geschwommen wie ich wollte, aber es war auch tierisch voll. Ich hätte nicht gedacht, dass es auf einen Sonntagmittag so voll ...

iceblog.twoday.net/topics/normal+madness/

LISTE B

2 分 析

2.1 検索結果

すでに上で触れたように、今回の検索でヒットした総数は、799 件であったが、重複データが多数あり⁶⁾、目的とした助動詞つきの“viel geschwommen”に当たるデータは、合計 272 件であった⁷⁾。その内訳は、haben を伴ったものが 25 件 (9%)、sein を伴ったものが 247 件 (91%) となった。



図-1 : viel geschwommen の例文全体

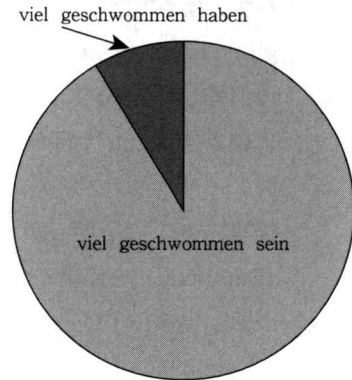


図-2 : haben と sein の割合

図-1 は、例文としてヒットした全体数における完了の助動詞 sein と haben を含む例の割合を示したもので、それ以外の部分は重複データ、及び助動詞の省略や受動態の例を示している。図-2 は、完了の助動詞を含む例文の中における sein と haben の割合を示したものである。図-2 が示すように、sein が選択された割合は、91% に及び、圧倒的に多いことが分かる。

2.2 データの特徴

インターネット上の言語データは、その量から判断すると実に豊富であり、しかも検索エンジンの検索スピードは圧倒的である。今回のデータも、最初の 100 例の検索に要した時間は、0.23 秒であった⁸⁾。しかし、一般的にインターネット上のデータを、生の言語資料として使うことには、いくらかの制約があることをあらかじめ承知しておかねばならない。以下に 3 つの留意点を挙げる。

(I) データの多様性

言語データとして見た時に、その収集されたデータには、さまざまな種類のものが混在していることが分かる。インターネット上で収集したデータは、基本的に書かれたデータであるにもかかわらず、極めて話し言葉に近いもの (例えば (5) における縮約形 *gibts*, *hab's*, *haste* の使用、*da* の脱落した *für* の使用、語末母音の消失した *hab*、口語的強調の副詞 *echt* の使用) から、明らかに書き言葉として書かれたもの (例えば (6a) は、スイミングスクールのパンフレット、(6b) は、Erik という人物の自伝風の描写、(6c) は、明らかな手紙文) まで存在する。また、絵文字 (Emoticon) を使用した、ネット的文章もある (例えば (7) の「:」)、「\@」、「;」)、「:D.」)。

(5) a. (sein-39)

Fitnessbodybuilding-Muskelma

... muskelmasse verloren gehen??!? da gibts keinen grund für. bin früher auch viel geschwommen (5 Te's pro woche). schwimmen ist echt ...

www.fitnessbodybuilding.de/muskelma.html

b. (sein-40)

wer-weiss-was— “Veränderung des Körpers”— aus Forum Gesundheit ...

(ich selbst hab's nicht so extrem gemerkt, aber ich bin vor dem Klettern auch viel geschwommen, gerudert, gepaddelt) Und Laufen und Radfahren wirkt sich ...

www.wer-weiss-was.de/themel74/article2341222.html

c. (haben-4)

Bodybuilding-Powerlifting-Trainingsersatz

... Wie lange haste gebraucht? Was haste gemacht? also im studio angemeldet bin ich seit 25. 8. 03. hab vorher aber viel geschwommen ca. ...

www.bodybuilding-powerlifting.de/trainingsersatz.html

(6) a. (sein-80)

SCHWIMMSCHULE NESSIE â ein Markenzeichen, das verpflichtet. Wir ...

Der Kurs ist auch geeignet für Kinder, die nach dem Anfänger-Kurs nicht viel geschwommen und deshalb wieder unsicher sind. Automatisch werden im Rahmen des ...

www.schwimmschule-nessie.de/

b. (sein-83)

Kings Of Convenience-Biography

Neben seinem Studium, der Behandlung von Fallstudien und dem Songschreiben in seiner Freizeit hat Eirik regelmäßig trainiert, ist viel geschwommen, ...

www2.labelsmusic.de/kings-of-convenience/biographie/

c. (haben-10)

Herzlichen Dank im Voraus für Euren Pfofenabdruck. Außerdem habt ...

Hier im Süden, nahe Stuttgart, haben wir noch nicht so

viel geschwommen. Dafür war ich schon mehrfach im Rhein. Viele Grüße aus Schwaben von Victor 26 ...

magyar-vizsla-aaron.rossmann-webchen.de/default.aspx?id=55&cid=195&gb_aktseite=2

(7) a. (sein-169)

Staffel5.de->Kandidatin Ilkay (32)->> Allgemeines-Meinungen ...
... Bier trinken, mit Typen abhängen, den Tussen & Heuchlerinnen in den A. rsch treten *voll cool die S.. äh Frau*:) ist Sie früher viel geschwommen oder wuchtet...
www.staffel5.de/forum/index.php?showtopic=510

b. (sein-179)

Vogelforen-Nationalität
... suti, 23-10-2002 11:59. \@ Masal (Manu) Tja, da sieht man mal wieder, wie klein doch die Welt ist!:) Im Feldkirchner See bin ich als Kind viel geschwommen!: D. ...
www.vogel-forum.info/printthread.php?t=23977&pp=30

(II) データ提供者の偏り

WWW (World Wide Web) が考案され、最初の Web サーバーと Web ブラウザが登場したのは、1990 年であり、それも CERN (欧州合同素粒子原子核研究機構) のシステムが世界で初めてであったことから、今日のようなインターネットの普及が進んだのは、過去、たかだか 10 年間であると推定できる。いかにインターネットが普及したとはいえ、高齢の人々までもが広く日常的にインターネット上に文書を公開しているという統計はない。従って、書き込みをしているのは、若者、あるいは、実際に社会で日常的に仕事などでインターネットに接している人々であると考えられる。インターネット上の言語データは、この点で、高齢者の言語データを反映していない可能性が高い。また、イン

ターネットとは無縁の生活を送っている人達の存在も無視できないだろう。このような理由から、インターネット上の言語データの提供者には、偏りがあると考えられるが、それは、他のメディアを通じて流れてくる言語データ (例えば、新聞やテレビ、ラジオなどで使われる言葉) にも該当することで、限定つきではあるが、十分に研究対象として扱えるものである。

(Ⅲ) データの信頼性

初めから推敲を重ねて、間違いを極力なくすように書かれた文章は、インターネット上に流れる言語データのごく一部である (公の文書、組織を代表するサイトの文書など)。現在では、Blog の普及、チャットや電子掲示板、各種の SNS の登場で、気軽にインターネットへの書き込みが可能となっている。短時間で書きこむスタイルでは、当然のことながら意図しない間違いが発生する。これは、口語において、時間的線条性の制約から、間違いを放置するのと同様の現象であると考えられる。母語話者が、「直感的に正しいと思った言語使用」を常にインターネット上でしていると考えるのは、過度の期待である。むしろ、話し言葉と同じように、インターネット上での言語表現には、意図しない「言い間違い」が含まれていると考えるのが無難であろう。

2.3 データの評価

2.3.1 und による等位接続

活動を表わす viel schwimmen 'swim much' が、完了の助動詞に sein 'be' を選択する例が、今回の調査では、91% にも上ったが、その背景を考えるに当たって、データの中に何らかのの相関関係がないかどうかを検証する必要がある。

まず、und 'and' を使った等位接続文が多いことに注目した。等位接続

文では、同一の助動詞は、und の後ろでは省略可能であるため、und の前の文の完了の助動詞に影響を受けているのではないか、という予想である。例えば、(8a) のように、前文で bin 'am' (AUX) ...gelaufen 'run' (p. p.) が使われていれば、und の後で、完了の助動詞 bin を繰り返さずに geschwommen 'swim' (p. p.) が使える。この場合、前に完了の助動詞を sein にしたため、その影響で後続文でも、完了の助動詞を省略したと見なせる。(8b) のように、前文で hat 'has' (AUX) ...gefressen 'feed' (p. p.) のように完了の助動詞 haben が使われた時、後続文で、違う完了の助動詞を要求する動詞を導入する際には、明示的にそれを示す必要がある。(8b) では、わざわざ ist 'is' (AUX) を導入していることが見て取れる⁹⁾。

(8) a. (sein-14)

BRIGITTE Community-Gehören Kinder zu einem erfüllten Leben...

... Zitat. Hallo Aglaja, ich bin viel gelaufen und bis fast zum letzten Tag viel geschwommen. LG Chrissie —
Fange nie an aufzuhören. ...

www.brigitte.de/forum/showflat.php?Cat=&Board=49&Number=536731&page=0&view=collapsed& ...

b. (sein-31)

Unbenanntes Dokument

... Er hat von Anfang an gut gefressen und ist stets viel geschwommen, was ihm wahrscheinlich das Leben gerettet hat, da er so immer bei Kräften war. ...

[klaus-ingemar.de / aquarien _ terrarien / kleinesschild \ kroetenbecken.htm](http://klaus-ingemar.de/aquarien_terrarien_kleinesschild_kroetenbecken.htm)

ここでの検証は、前文で完了の助動詞が sein の時、後続文でも、その影響を受け、sein になるという可能性があるか否かという点にある。前

文と後続文の完了の助動詞が共通であれば、後続文では完了の助動詞を省略できることになる。この点では、完了の助動詞 haben が使われる場合でも同等である。そこで、viel geschwommen sein あるいは、viel geschwommen haben が等位接続詞 und で結合している場合、どのような完了表現が共起しているかを調べてみた。表-1 がその結果である。ここでは、1 回しか生起しなかった例は除いてある。

表-1 : und による geschwommen sein/haben との等位接続

	geschwommen sein	geschwommen haben
gelaufen sein	7	0
Rad gefahren sein	6	0
getaucht sein	3	0
gesegelt sein	3	0
Tennis gespielt haben	3	0
Volleyball gespielt haben	2	0
gefaulenz haben	0	2
(sich) gesonnt haben	2	2

完了の助動詞を含む有効データに含まれる und は、総数 283 件 (geschwommen sein が 261 件、geschwommen haben が 22 件) に及ぶが、表-1 から分かるように、完了の助動詞を含んだ等位接続は、当初の予想より少なかった。その中で、gelaufen sein (「走った」) が一番出現率が高く¹⁰⁾、Rad gefahren sein (「自転車で走った」) がそれに次ぐ。getaucht sein (「潜水した」)、gesegelt sein (「ヨットに乗った」) がわずかに 3 件ある。これら 4 つの動詞は、すべて自動詞で移動を表わす場合には、完了の助動詞 sein を選択することで知られている。そして、これらの sein を選択する自動詞が、geschwommen haben と共起していないことに注目したい。ここでは、なんらかの共起関係をみてとれる¹¹⁾。合計 5 件ある「スポーツをする」こと (テニスとバレーボール) との共起した例では、geschwommen sein と完了の助動詞の異なる gespielt haben が使われている。geschwommen haben との共起関係を見ると、

gefaulenz haben (「怠惰に過ごす」) が 2 件あり、(sich) gesonnt haben (「日光浴をする」) が sein の場合と同様に 2 件ある。サンプルがあまりにも少ないことから、この点に関しては有意な判断はつかない。

2.3.2 時を表わす副詞との共起

次に、共起する副詞を調査した。検索フレーズが“viel geschwommen”であることから、そこに現われる時を表わす副詞に着目した。(9) は、その結果であり、最初の括弧内に、生じた回数、次の括弧内にサンプル数 (n=272) で割った割合を示した。

- | | | | | |
|------|----|---|------|--------|
| (9) | a. | Ich bin <i>früher</i> viel geschwommen. | (13) | (4.8%) |
| | b. | Ich habe <i>früher</i> viel geschwommen. | (2) | (0.7%) |
| (10) | a. | Ich bin <i>vorher</i> viel geschwommen. | (0) | (0) |
| | b. | Ich habe <i>vorher</i> viel geschwommen. | (3) | (1.1%) |
| (11) | a. | Ich bin <i>davor</i> viel geschwommen. | (4) | (1.5%) |
| | b. | Ich habe <i>davor</i> viel geschwommen. | (1) | (0.4%) |

ここで対象とした時間副詞は、*früher*, *vorher*, *davor* であるが、最初の 2 つは、「以前に」という意味で、ほぼ同じ意味を担っている。*davor* は、「その前に」という意味で、特定の過去の時点を示し、その前の時間を示している。*früher* の共起する (9) の例では、完了の助動詞選択 *sein* が優勢である。一方、(10) の例で使われる *vorher* は、完了の助動詞 *sein* との共起が起きていない。ただし、ここでは完了の助動詞 *haben* との共起がわずか 3 例であったため、これが統計的に有意な差であるとは断定できない。(11) の *davor* も、総数はわずかに 5 件であり、サンプル数での割合で比較すると差異はほとんど認められない。

3 考 察

3.1 歴史的データ

今回扱っているデータは、2.2でも述べたように、近年のインターネット上から収集したもので、過去のドイツ語のデータとして、比較できるものがない。そこで、ここでは、文法書や辞書の記述を参考に、*schwimmen* の完了の助動詞選択の歴史的状況を概観してみよう。

Grimm/Grimm (1984, Band 15: 2628)¹²⁾ は、動詞 *schwimmen* の完了の助動詞は *haben* あるいは *sein* の可能性があるとし、その違いを次のように説明している。

その違いのひとつは、意味にある。即ち、「*ich habe geschwommen* は、活動 (*tätigkeit*) を強調している (私は、泳ぐという動作を遂行した)、例えば、*heute morgen habe ich eine halbe Stunde geschwommen*. [今朝、私は30分泳いだ。] *ich bin geschwommen*. [私は泳いだ。] は、結果 (*das resultat*)、到達状態 (*den erreichten zustand*) を強調している (泳いでどこかへやって来た) 例えば、*ich bin über den flusz geschwommen*. [私は、その川を泳いで渡った]。他方で、方言的な違いもあり、北部では *haben*、南部では、*sein* を好む¹³⁾。

証拠として挙げている文献は、まず Clajus (1578), Steinbach (1734), Gottsched (1748) だが、Clajus には、*haben* と *sein* 双方の例が見られるが、Steinbach と Gottsched では、*sein* の用例しか見られない、としている。

ここでは、助動詞として *haben*, *sein* を使った例を2例ずつ引用しておく。注目すべき点は、*sein* を完了の助動詞として選択している (12c)、

(12d) の例で、(12c) では、起点 *ausz dem see* ‘from the sea’ と目標 *an das land* ‘to the land’ が、(12d) では、起点 *ausz dem schifpruch* ‘from the shipwreck’ が明示されていることである。これらの意味役割は、文のアスペクトを活動から達成へと変化させるため、完了の助動詞 *sein* を選択する理由となる。それに対して、完了の助動詞 *haben* を選択している例では、(12a)、(12b) のように、起点も着点もない例が挙げられている。

- (12) a. dann er het sonst geschwummen wie eyn wetzstein.
(Fischart 1573)
- b. (der bär) hatte sein lebetag nimmer geschwummen.
(Reinicke Fuchs, 1650)
- c. wie nun der waffenträger Thiamis...ausz dem see an
das land geschwummen war. (Reichard 1779)
- d. die hund sind ausz dem schifpruch gschwmmen
und also nasz gen hoff herkommen. (Sachs 1824)

ここでは、完了形の成立に関する歴史には深く立ち入らないが、*sein* を完了の助動詞として用いる用法は、Paul (³1962: 334) によると「過去の出来事の結果を現在で表わす」(präsentische Bezeichnung des Resultats eines vergangenen Vorgangs) から発しており、自動詞の完了形で *haben* が使われるようになったのは、古高ドイツ語ではまだ一般的ではなかったようだ¹⁴⁾。他動詞の完了形に *haben* が用いられるようになったのも、(13a) の形が古高ドイツ語での形であり、過去分詞には屈折があり、目的語との一致が見られたとしている¹⁵⁾。ここでは、過去分詞が受動の意味を保持しており、過去に起こったことを「現在の結果」として表現していたと考えられている。

- (13) a. Ich habe das Buch als ein gefundenes.
b. Ich habe das Buch gefunden.

ここで着目しておきたいのは、Grimm/Grimm (1984) で、完了の助動詞 *sein* が使われるケースを「結果」、あるいは、「到達状態」と表現し

ている部分にある。即ち、動詞が「移動」を表わす場合というのは、移動の結果生じる位置変化があることであり、「移動しているとか止まっている」という活動を示しているのではない¹⁶⁾ という考え方である。その意味で、移動動詞と状態動詞が完了形で *sein* を助動詞として選択することは、無関係でないことになる。

Paul (³1962: 334) の指摘するように、「もともと継続相の自動詞は完了形を作れなかった」が他動詞の完了形に *haben* (= *eigan*) が使われたことが徐々に自動詞の完了形を作り、中高ドイツ語や低地ドイツ語に広まったという考え方ができる¹⁷⁾。動詞 *schwimmen* に限って見ると、Adelung (1811: 48724ff) にすでに、(14a) に対して、(14b)~(14d) までの「泳ぐことで行なわれる移動の目標、あるいは、移動の方向」¹⁸⁾ のケースとして違いを説明していることから、この違いは、*sein* と *haben* を使い分ける完了形の成立の中で、比較的早くから意識されていたものと推測できる (イタリックは筆者による)。

- (14) a. Wir *haben* den ganzen Tag geschwommen.
b. Er *ist* über den Fluß geschwommen.
c. Ich *bin* an das Land geschwommen.
d. Wir *sind* zurück geschwommen.

ここで、歴史的変化を簡単にまとめておこう。「活動」の意味を持つ自動詞が、完了の助動詞 *haben* を選択する、という事態は、Paul (³1962) によれば、「継続相」の自動詞と把握されており、古高ドイツ語ではほとんど見られなかったが、中高ドイツ語以降広まった。完了の助動詞 *sein* を選択する自動詞は、「過去の出来事の結果を現在で表わす」ことが元になっている。「方向を伴った移動」という事態は、例えば移動後の場所が結果状態として把握されるために、助動詞 *sein* と結びついている、と説明されたが、すでに中高ドイツ語の時点で、状態を表わす動詞の完了形に関して、北部と南部の方言差が存在していたようだ。

動詞 *schwimmen* に関しても、このような歴史状況の中で捉えること

ができるが、「活動」を表わす場合には、完了の助動詞が *haben* になる、という点は、Adelung (1808)、Grimm/Grimm (1984)、Grimm (1898)、Paul (³1962) で共通した観点である。ただし、Grimm (1898)、Grimm/Grimm (1984) では、*schwimmen* に関して、南部では完了の助動詞 *sein* が好まれる、との記述がある¹⁹⁾。

3.2 近年の文法書による記述

Zifonun/Hoffmann/Strecker (1997: 1873) では、動詞 *schwimmen* は、*springen* 'spring'、*hüpfen* 'hop'、*tanzen* 'dance'、*hinken* 'limp'、*flattern* 'flutter' と並び、移動動詞 (Bewegungsverben) と分類されているが、その性質は場所の移動 (Ortsveränderung) というよりも、むしろ移動様態 (Bewegungsart) に力点があり、原則的に *haben* を選択して完了形を作るとしている²⁰⁾。ただし、「これらの移動様態動詞に、*davon* 'from it'、*heraus* 'out of'、*hinein* 'into'、*weg* 'away' のような方向を表わす副詞が加わると、動詞句全体は (結びついた副詞句と共に) 変換的性格を持つようになり、完了形は *sein* を伴って作られ、過去分詞は、それらの副詞句を付加することで付加語的に使えるようになる」²¹⁾ としている。

これは、完結性 (telicity) との観点から注目された以下のような観察が元になっている。動詞 *flattern* は、「パタパタと羽ばたいて飛んでいる様態」を示すだけで、完結的ではない。ましてや、動詞そのものが、特定の方向への移動を含んでいるわけではない。(15a) の文の動詞を、(15b) のように名詞の付加語として前に置くことができないが、それは、自動詞から作られた過去分詞が付加語的に用いられるのは、完了の意味を持つ場合に限られる、という制約があるからである。それに対して、Zifonun/Hoffmann/Strecker (1997: 1873) が挙げる (16a) から作られた (16b) は、*weg* 'away' が付加された不変化詞動詞になることで完了の意味を獲得したため、容認できる句となっている。

- (15) a. Der kleine Vogel hat geflattert.
b. *der geflatterte kleine Vogel
- (16) a. Der kleine Vogel ist schließlich weggeflattert.
b. der schließlich weggeflatterte kleine Vogel

Zifonun/Hoffmann/Strecker (1997: 1873) は、同様な例として、(17a)、(17b) の用例を挙げているが、具体的に説明対象にはせず、(17c) の例を挙げ、これらの haben と sein の使い分けが「厳密に守られているわけではない」(keineswegs strikt eingehalten) とコメントするにとどまっている。

- (17) a. (...) oder **sind** Sie vielleicht an Land **geschwommen**?
(TLP, 10)
- b. Während man ihn nach dem Hof zurückführte, erging er sich wiederholt über die Kälte des Weihers und fügte hinzu, es sei sehr schwer, sich in einem Wasser zu ertränken, in dem man oft gebadet und **geschwommen habe**. (AMF, 673)
- c. Der Fisch **ist geschwommen** und wurde gefangen, jetzt ist er geröstet und zubereitet. (Zeit, 29. 3. 1985, 51)

(17a) は、an Land schwimmen「陸地へ向かって泳ぐ」ので、目標が示されており、想定されている規則通り、完了の助動詞は sein になる。(17b) は、関係文の中の schwimmen が前文の先行詞 Wasser を場所として取り込んでいる²²⁾。また、繰り返しを示す副詞 oft 'often' が共起している。(17c) の schwimmen に関しては、特に何も規定する表現はなく、一般的に移動様態を表わすと考えれば haben を選択してもよいはずの文である。

この他に、Zifonun/Hoffmann/Strecker (1997: 1875) は、対格の区間添加語 (Strecken-Angabe) や時間添加語 (Zeitmaß-Angabe) が現われる場合の完了の助動詞に言及しているが、意味的には完結的になり、

過去分詞として名詞の付加語に現われうることを指摘して (cf. 18b, 19b) おきながら、助動詞選択としては *sein* も *haben* も使われているという観察を述べるだけにとどまっている。

- (18) a. Er **hat** eigentlich gute Zeiten **geschwommen**. (XDG, 5)
b. die vom ihm geschwommenen eigentlich guten Zeiten
- (19) a. Die vorgeschriebene Zeit von 15 Minuten **war** der Kaufmann bereits **geschwommen**. (Bild, 21. 7. 1967, 1)
b. die von ihm bereits geschwommene vorgeschriebene Zeit

これに対して、Duden Grammatik (2005: 472) は、自動詞で完了の助動詞 *sein* を選択するものを前進移動の中心的動詞 (Zentrale Verben der Fortbewegung)、移動様態動詞 (Bewegungsverben, bei denen die Art der Bewegung im Mittelpunkt steht)、静止動詞 (Verben der Ruhe) の3つに分けている。*schwimmen* は、Zifonun / Hoffmann / Strecker (1997) と同様に移動様態動詞に分類され、完結的か非完結的 (telisch oder atelisch) によって、完了の助動詞が *haben* か *sein* になると説明している²³⁾。そして、その説明にもかかわらず、「しかし、この領域の言語使用はゆれている。klettern, schwimmen, joggen のような移動動詞では、多くの話者が Aktionsart とは無関係に、*sein* を使って完了形を作る傾向がある」²⁴⁾ と説明を加えている。そこでは、*schwimmen*, *tanzen*, *hinken* の例が挙げられている。

- (20) a. Sie **ist** [über den Fluss] **geschwommen**.
Wir **sind** [um den Baum] getanz.
Sie **war** [auf die Straße] gehinkt.
- b. [In diesem See] **habe (bin)** ich oft **geschwommen**.
Man **hat** [im Rittersaal] **getanzt**.

(20a) の例では、[über den Fluss] (川を越えて)、[um den Baum] (木の回りを)、[auf die Straße] (道の方へと) がいずれも経路 (path)

の表現になっており、これが理由で、完結的な読みが可能になるため、完了の助動詞は sein となる。それとは対照的に、(20b) では、場所表現が共起しており、その場所で、ある行為が行なわれるという読みになる。従って、通常なら haben が完了の助動詞として選択されるはずだが、括弧の中に bin となっているので分かるように、sein が選択されることがある。

ここでは、「多くの話者が Aktionsart²⁵⁾ とは無関係に、sein を使って完了形を作る傾向がある」という Duden Grammatik (2005: 472) の指摘が本当に正しいものなのかどうかを検証する必要がある。第2節で見たように、schwimmen の完了形において助動詞 sein は、viel という〈行為の量〉を特定する副詞を伴った際にも、圧倒的多数 (91%) であったが、その理由が問われなければならない。

問題点を言い換えれば、次の2点になる。

- (I) ドイツ語母語話者は、動詞 schwimmen に関して、アスペクトの区別とは関係なしに完了の助動詞 sein を使っているのか?
- (II) なぜ、完了の助動詞 sein は、viel geschwommen という活動の意味と矛盾しないのか?

この2つの問題には、言語外的要因からの答え方も考えられるが、当論文では、言語内的要因を探る。その理由は、たとえ言語変化がささやかなものであっても、それは、1つの言語体系の中で意味のある変化でなければ、定着しえない、という仮説を支持するからである。

3.3 理論的考察

理論的考察に入る前に、これまでの議論を整理しておこう。動詞 schwimmen を使った文のアスペクトが、どのような副詞句を入れることにより、どのような読みになるかをまず確認しておきたい。

「移動様態動詞」は、一般に完了の助動詞として sein でも haben でも選択しうることが知られている。この種の動詞としては、Zifonun/

Hoffmann / Strecker (1997) と Duden Grammatik (2005), Duden Richtiges und gutes Deutsch (2005) の挙げている動詞を統合してみると、次の9つである：

- (21) a. bummeln 「ぶらぶら歩く」
b. flattern 「羽をぱたぱたさせる」
c. hinken 「(片足が不自由で) ぎこちなく歩く」
d. hüpfen 「びょんびょん跳びはねる」
e. joggen 「ジョギングする」
f. klettern 「(手足を使って) よじ登る」
g. schwimmen 「泳ぐ」
h. springen 「跳びはねる」
i. tanzen 「踊る」

完了の助動詞 *sein* と *haben* の選択に関しては、アスペクトからの説明、完結性 (telicity) からの説明、そして非対格動詞からの説明があるが、共起できる副詞からその性質が吟味できるとされている。これまで、*viel* ‘much’ と *oft* ‘often’ を例として挙げてきたが、ここでそれらに加えて、時間副詞句と場所副詞句のステータスを考えてみよう。

- (22) a. Ich [habe/bin] **viel** geschwommen.
I [have/am] much swum-pp
'I have swum much.'
b. Ich [habe/bin] **oft** geschwommen.
I [have/am] often swum-pp
'I have often swum.'
c. Ich [habe/bin] **2 Stunden (lang)** geschwommen.
I [have/am] 2 hours long swum-pp
'I have swum for 2 hours.'
d. Ich [bin/habe] an Land **in 2 Stunden** geschwommen.
I [am/have] to land in 2 hours swum-pp

'I have swum to the land in 2 hours.'

e. Ich [habe/bin] im Nordsee geschwommen.

I [have/am] in-the Northsea swum-pp

'I have swum in the North Sea.'

(22d) のように、目標を伴うと、完了の助動詞が sein になり、それ以外のケースでは、それぞれの文は活動 (activity; Tätigkeit) を表わし、完了の助動詞が haben になる、というのがこれまで広く受け入れられてきた考え方だった (下線部の助動詞が文法理論的には想定されていた)。今回の調査では、(22a) のケースで、この一般的想定に反して sein が圧倒的に選択されていた。

それでは、(22b) のケースはどうだろうか。“oft geschwommen” というフレーズ検索の結果、トータルでは、160 件ヒットし、その内、完了の助動詞を用いた例が 62 件、完了の助動詞 sein が選択された例が、58 件 (94%)、haben が選択された例が 4 件 (6%) だった。以下に、完了の助動詞 haben が選択された例を挙げる。

(23) a. (haben-1)

ThE-WeB-MaTRiX-Sportarten?

Früher vor ca. 2.5 Jahren habe ich sehr oft geschwommen.

Ich habe mir aber vorgenommen, dass ich nach der Winterpause bei Handball wieder anfangen. Außerdem noch will ich im nächste Jahr mit dem Jogging anfangen. Aber nur dann wenn es mit der Schule ...

www.the-web-matrix.de/showthread.php?t=13915-107k

b. (haben-2)

Forum title-Anzeige des Themas #56624-Team 2006/2007
er ist für mich einer der hauptgründe, wieso unsere abwehr diese saion oft geschwommen hat, er hat in jedem spiel 2-3 sellungsfehler drin und grätsch viel zu

viel, dass liegt daran das er in der jugend nie die grundlagen für die ...

www.transfermarktforum.de/dc/dcboard.php?az=show_topic&forum=16&topic_id=56624&mesg_id=56624&... - 77k

c. (haben-3)

FC Schalke 04 Forum — Schalker Markt — Saison für Schalke gelaufen?

Bremen hat gegen Bayern nicht wirklich gut gespielt und oft geschwommen.. Ist mindestens 2 Tore zu hoch ausgegangen.

_____ Mailand, Madrid-Hauptsache Italien

www.forum-aufschalke.de/thread.php?postid=2064233-105k

d. (haben-4)

Pinwand

DAS IST FAKT! solch ein Sch...ist einfach nicht schön zu reden. die abwehr hat oft geschwommen, und das schlimme daran meist durch eigene fehlpässe!!! ich lasse mir meine augen heute nicht verschleiern durch glücklich gewonnene 3 ...

www.fcenergie.de/forum/pinwand.php?seite=3750&-22k

(23a) は、Früher vor ca. 2. 5 Jahren 'earlier, about 2. 5 years ago' という時間副詞句が前置されており、この文は、過去の一時点を参照点として、ある行為が行なわれていることを述べているので、これまでの文法的想定通り、haben 選択が予想される。(23b)～(23d) までの例では、主語が Abwehr 'defense'、あるいは、Bremen であり、話題はサッカーで

ある。Abwehr は、ディフェンス、あるいはディフェンダーで、Bremen は、地名であるが、Bremen のサッカーチームのことを指している。ここでの *schwimmen* の意味は、Das große Wörterbuch der deutschen Sprache (2000) の 8. にある、「ある状態をまはやコントロールできない、対抗できない、確信がない」という意味の口語表現である²⁶⁾。同辞書の記述でも、この意味では、完了の助動詞は *haben* であるとしてあるが、結果としてこの記述が確かめられたことになった。

次に、Stunden geschwommen ‘for two hours’²⁷⁾ について考えてみよう。継続時間表現は、状態や活動動詞とは共起できても、達成や到達(状態変化や過程的变化)を表わすアスペクトとは共起できないことが知られている。また、逆に in 2 Stunden のような時間枠表現は、達成や到達動詞とは共起できても、状態や活動動詞とは共起できない。(24b) は、2 Stunden lang という継続時間と「ワインを飲む」という活動が共起できることを示しているが、(24d) のように in 2 Stunden のような時間枠表現だと「ワインを飲む」活動とは共起できないことを示している。なお、(24a) のように、目的語が可算化すること(「2本のワイン」)で、行為の完了の意味が加わり、継続時間表現が使えなくなるが、逆に(24c)のように、時間枠表現が使えるようになることを示している。

- (24) a. *Wir tranken **zwei Stunden lang** zwei Flaschen Wein.
b. Wir tranken **zwei Stunden lang** Wein.
c. Wir tranken **in zwei Stunden** zwei Flaschen Wein.
d. *Wir tranken **in zwei Stunden** Wein.

Zifonun/Hoffmann/Strecker (1997: 1867)

以上のような観察をふまえ、第2節で述べた検索方法を踏襲し、“Stunden geschwommen” というフレーズ検索を行なった。その結果、総ヒット数は、184件、完了の助動詞を含んだ例の総数が50件、seinを完了の助動詞とした例が39件(78%)、habenを完了の助動詞とした例が11件(22%)となった。

継続時間表現と時間枠表現の総数を比べてみたのが、表-2である。ここでは、継続時間表現に、für 2 Stunden のように、前置詞 für ‘for’ を伴うものや、länger als ‘longer than’ のような修飾語のついたものも含めた。

表-2：時間副詞句との共起

	geschwommen sein	geschwommen haben	合計
～ Stunden	31	9	40
in ～ Stunden	4	1	5
	35	10	45

継続時間表現は、時間枠表現と相補関係にあり、完了の助動詞も sein でない時は、必ず haben になることから、ここでは、フィッシャーの正確確率検定を行ない独立性の検定を行なった²⁸⁾。R を使って計算した²⁹⁾結果は以下ようになった。

p-value = 1

alternative hypothesis: true odds ratio is not equal to 1

95 percent confidence interval: 0. 01576215 10. 33361584

sample estimates:

odds ratio 0. 8638855

この結果、 $p=1$ となり、有意確率が 100% で帰無仮説は棄却されず、独立である可能性が十分ある。データに即して言い換えると、schwimmen という動詞に限っての今回の調査結果では、sein と haben の助動詞選択は、～ Stunden あるいは、in ～ Stunden という要因とは関係がない可能性が 100% であることになる。オッズ比が 1 でない可能性もあるが、その場合も、上述のようにおよそ 86% であり、2つの要因は高い確率で無関係であるといえる。

意外とも言えるこの結果をどのように解釈すべきだろうか。再度、データを見直すと、in ～ Stunden geschwommen sein は、本来、アスペクト的観点から予想されるものであり、また、それに反する in ～ Stunden geschwommen haben がわずか 1 例だったことも、ほぼ予想通りといえ

る。統計的に帰無仮説が保留された大きな要因は、～ Stunden geschwommen sein の数が多く、in ～ Stunden geschwommen haben の数がほとんどない、というデータにある(データの的には、～ Stunden geschwommen sein が多ければ、in ～ Stunden geschwommen haben が多くなることが期待される)。元来期待されていた文法的想定からは、～ Stunden geschwommen haben と in ～ Stunden geschwommen sein が多く出現することになるが、そのようなケースでも、完了の助動詞選択と時間副詞句の継続と粋表現が関係を持つことが示されたはずだ。しかし、今回のデータからは、そのような関係性を統計的に示すことはできず、むしろ無関係であるという結果になった。

(I) の問い「ドイツ語母語話者は、動詞 *schwimmen* に関して、アスペクトの区別とは関係なしに完了の助動詞 *sein* を使っているのか？」に対するここでの答えは、時間副詞句の共起関係が見つからなかったことを論拠にすれば、その通り、ということになる。

最後に、場所の副詞句を取る場合に触れてしておこう。これは Zifonun / Hoffmann / Strecker (1997) からの例文 (17 b), Duden Grammatik (2005) からの例文 (20b) が示すように、「場所の副詞句」が用いられると、完了の助動詞選択は *haben* になるのではないかと、いう予想である。今回収集したデータには、場所の副詞句があり、完了の助動詞 *haben* が選択されているケースは、8 件であり、完了の助動詞 *sein* が使われている例が 27 件だった。

全体の場所副詞(句)の分布状況を、表-3 で示す。

場所副詞(句)との共起に関しては、今回収集したデータは、*viel, oft, Stunden* との共起を元に検索しているため、これらの語が含まれない多くのデータが存在するはずなので、あくまでも参考データという位置づけになる。ただ、このデータの範囲では、*oft* が場所副詞(句)と共起するケースは比較的多く見られた(58 件中 16 件、約 28%)³⁰⁾。

表-3: 場所副詞 (句) との共起

	viel g. s.	viel g. h.	合計
場所副詞句あり	10	2	12
場所副詞句なし	237	23	260
	247	25	272
	-Stunden g. s.	-Stunden g. h.	合計
場所副詞句あり	1	1	2
場所副詞句なし	32	9	41
	33	10	43
	in-Stunden g. s.	in-Stunden g. h.	合計
場所副詞句あり	0	1	1
場所副詞句なし	1	2	3
	1	3	4
	oft g. s.	oft g. h.	合計
場所副詞句あり	16	0	16
場所副詞句なし	41	4	45
	57	4	61

g. s.=geschwommen sein, g. h.=geschwommen haben

4 結 論

最後に、(II) の疑問について考えたい。“viel geschwommen” が完了の助動詞 sein と共に使われる例が圧倒的に多い (247 件中 272 件、91%) という結果をどう言語理論的に評価したらよいだろうか。(II) の疑問の提示の仕方は、なぜ、完了の助動詞 sein は、“viel geschwommen” という活動の意味と矛盾しないか、というものだった。

その答えは、移動様態動詞と移動動詞の関係にある。そもそも移動様態動詞が、アスペクト的に活動の意味を持つ、という時、問題になるのは、主語の意味役割である。まず、典型的な活動動詞の 1 つ、arbeiten ‘work’ と schwimmen を比較してみよう。

- (25) a. Peter hat/*ist viel gearbeitet.
Peter has/is much worked-pp
'Peter has worked much.'
- b. Peter hat/ist viel geschwommen.
Peter has/is much swum-pp
'Peter has swum much.'

arbeiten は、schwimmen とは異なり、完了の助動詞に sein を選択することはない。通常の活動を表わす動詞であり、主語は、外項であり、行為者として解釈される。しかし、schwimmen の場合、主語は行為者という解釈もできるが、移動物 (= 主題) という解釈も成り立つ。Jackendoff (1990: 126ff) によれば、文の意味役割は二重に構造化される可能性がある。主題 (theme)、起点 (source)、目標 (goal) は、主題層 (thematic tier) に割り当てられた役割で、Actor (行為者) や Patient (被動者) は、と行為層 (action tier) に属すると考えられる³¹⁾。この2つの層を分ける立場にたつと、(25b) の hat と ist の差は、明確に区別できる。即ち、haben を完了の助動詞とする場合は、主語は行為者であり、文全体としては、活動を表わすが、sein を選択する場合には、非対格動詞となり、主語は、主題となる、ということである。完了の助動詞選択が2種類認められる移動様態動詞にあつては、元来、どちらの解釈かによって、助動詞選択が決められてきた。しかし、今回の結果を schwimmen という動詞の1つの傾向として捉えたと、schwimmen は、活動の意味を失い、非対格動詞化している、ということになる。言い換えれば、この動詞は、移動様態動詞から (純粋な) 移動動詞へ変化している、と言える。

では、viel と共起できるのはなぜなのだろうか。それは、非対格の移動動詞に対して付けられた副詞であり、〈行為の量〉ではなく、〈移動の量〉を表わすように変化した、と説明できる。

岡本 (1996) では、このような傾向を把握しておらず、ドイツ語の laufen 'run' という動詞も移動様態動詞と位置づけていた。しかし、

Zaenen (1993) が挙げるようなオランダ語の例とは異なり、現在では、*laufen* も完了の助動詞選択は *sein* が圧倒的に主流であり³²⁾、移動動詞となっていると考えられる。(26a) のように、オランダ語では、未だに *hebben* 'have' を使って、活動の意味を表わすことが可能であるが、ドイツ語では、すでに (26b) の用法が普通であり、活動の意味ではなく、移動の意味に変容してしまっている、と考えられる。(27a) のオランダ語では、目標が加わったことから、主題層の意味が全面に出て、動詞 *lopen* 'run' は、(26a) とは異なり非対格動詞となっていると解釈できるが、(27b) のドイツ語では、*laufen* 'run' がすでに移動動詞として非対格化されているため、(26b) と同様に、完了の助動詞は *sein* となっていると説明できる。

- (26) a. Hij heeft/*is gelopen.
he has/*is run-pp
'He has run.'
- b. Er *hat/ist gelaufen.
he *has/is run-pp
'He has run.'
- (27) a. Hij is/?heeft naar huis gelopen.
he is/?has to house run-pp
'He has run to his house.'
- b. Er ist/*hat nach Hause gelaufen.
he is/*has to house run-pp
'He has run to his house.'

それでは、3.3 で示した継続時間表現との共起は、どう説明したらよいだろうか。

- (28) Ich bin 2 Stunden (lang) geschwommen.
I am 2 hours (long) swum
'I have swum for two hours.'

(29) Ich bin 2 Stunden (lang) gelaufen.

I am 2 hours (long) run-pp

'I have run for two hours.'

(28), (29) のような今日普通に見られる表現は、〈移動〉表現であり、非対格動詞となっている *schwimmen* と *laufen* の主語は、移動物 (= 主題) である。そのように考えると、継続時間表現は「目標とは関係なく、移動にかかる時間」が示されていると考えられ、あたかも状態表現の一部を時間的に切り取っているだけである、と解釈できる。ここで、新たに提案された〈移動〉動詞を、これまでの「移動動詞」と区別するために、「非対格化様態動詞」(Unaccusativized Manner Verbs: UMV と略) と呼ぶことにする。非完結的移動動詞は、以下の特徴を持つことになる。

(a) UMV は、非対格化された様態動詞であり、完了の助動詞は *sein* を選択する。

(b) UMV は、それ自体、非完結的 (atelic) だが、目標 (goal) の意味役割を持った句が共起すれば、完結的になる。

(c) UMV は、行為層の意味を失い、主語の意味役割は主題 (theme) である。

UMV は、(b) の特徴が決定的な役割を果たす。目標の意味役割をもった句が生起しなければ、継続時間表現と共起し、目標の意味役割を持った句が生起すれば、時間枠表現と共起する。継続時間表現と共起する点では、状態動詞と似ているが³³⁾、時間枠表現と共起しうる点が状態動詞とは異なっている。非対格動詞で主語が主題であるという特性は、活動のアスペクトが消失した結果である³⁴⁾。

当論文では、動詞 *schwimmen* が完了の助動詞として *sein* を選択するようになっているという現状をインターネットのデータに基づいて検証した。過去の文献にさかのぼって *schwimmen* のデータを見ると、助動詞選択は、*haben* と *sein* が意味の区別として存在し、かつ、ドイツ語圏の北部では、*haben* が優勢、南部では *sein* が優勢であるとの記述が残され

ている。今回のデータは、「被験者」の出身地が不明なため、地域的な差は把握できないが、この助動詞選択の変化を数値的に裏付けるものとなった。文の意味構造に踏み込んで解釈してみると、従来の活動のアスペクトが消失し、主題層の意味を担う「移動」の意味が全面に押し出された形に変化していると思われる。また、sein を選択する schwimmen の完了形の文は、継続時間表現と共起するが、それは、継続時間の一部を切り取っているだけの「移動」表現に過ぎないと解釈できる。このような変化は、言語変化の小さな側面ではあるが、おそらく先行して UMV 化した laufen と並んで、一つのドイツ語の変化の流れを示していると考えてもよいだろう。従来から移動動詞、あるいは移動様態動詞と呼ばれている動詞群が、どのくらい UMV 化しているのかに関しては、今後の課題となる。

注

- 1) Das große Wörterbuch der deutschen Sprache (2000) では、schwimmen の 1. b) に、*zum Vergnügen, um sich sportlich zu bestätigen o. Ä. schwimmen (I a)* という説明を与え、例文に、*„er hat/ist früher viel geschwommen.“* を挙げている。このように、辞書では、この用法の schwimmen が haben と sein の両方の完了の助動詞を取れるとし、haben の例を前に置く例がしばしば見られる。
- 2) 雑誌記事で偶然目にした *„Ich bin früher viel geschwommen“* という文がきっかけとなった。
- 3) 実際には、oft は、viel ほどアスペクトを限定できるわけではない。例えば、「しばしば [目標] へ行く」という形も可能であり、目標をもった達成の意味でも使うことが可能で、この場合は、習慣的行為を表わすことになる。
- 4) データの効率的利用のために、こうして集められた例文は、haben と sein の選択により別ファイルとし、L^AT_EX のデータに変換し、最終的には PDF ファイルに変換した。
- 5) Duden のニュースレターを今回の検索データに含めることは、言語使用の実態を把握するという趣旨から外れるが、一つひとつのデータの有効性を検証することを前提としてしまうと、主観的に特定のデータを切り捨てる危険性があるので、今回はこのような例も除外しなかった。なお、この箇所では、

- geschwommen haben の例文も geschwommen sein の例文もそれぞれ一回ずつ登場するため、全体での割合には影響していない。
- 6) 特定のニュースが、さまざまな新聞や雑誌で取りあげられたケースもあり、文章としては一部異なっているが、最高で13件が同一のニュースであった。Ursula Andress (70) がインタビューの中で、„Ich bin viel geschwommen, da bleibt die Brust fest“ と発言したのがその例。
 - 7) それでも、IDS (Institut für Deutsche Sprache) のコーパス検索では、同様の検索をしても3件しかヒットしなかった (2006年3月22日) ことを考えると、十分に大きな数ではある。
 - 8) ブラウザに表示されたのメッセージ: Ergebnisse 1-100 von ungefähr 799 für „viel geschwommen“ (0, 23 Sekunden)
 - 9) ただし、LISTE A (sein-1)、(sein-2) の冒頭にある例のように、Ich bin viel geschwommen und Musik am Ufer gehört. のように、und の後続文では、hören ‘hear’ が使われ、完了の助動詞 haben を選択すべきだが、ここでは、und と Musik の間に本来入るべき habe が落ちているような例もある。このようなデータは、2.2 で述べたようにインターネット上の言語データが、時には口語的であり、文法的な過ちや省略が多いという性格を物語っている。
 - 10) rumgelaufen sein, zwei Marathons gelaufen sein を含む。
 - 11) サンプル数が小さいので、統計的に相関関係を計算してもほとんど意味はない。なお、例文の話題がトライアスロンである例が多いことから、「走る」と「自転車で走る」ことがこれだけ多く出現している主な理由である。
 - 12) Grimm/Grimm (1984) の該当の巻 (第15巻) の初版は、1899年に発行された。
 - 13) 原文: *der unterschied liegt einmal in der bedeutung: ich habe geschwommen betont mehr die tätigkeit (ich habe die bewegung des schwimmens ausgeführt, z. b. heute morgen habe ich eine halbe stunde geschwommen), ich bin geschwommen das resultat, den erreichten zustand (bin schwimmend wohin gekommen, z. b.) ich bin über den flusz geschwommen). andererseits kommt eine mundartliche differenz hinzu, indem der norden haben, der süden sein bevorzugt.*
 - 14) Notker において初めて、完了の助動詞として haben が節約的に (sparsam) 使われるようになった」との指摘がある。(ibid.)
 - 15) (ibid.) *sie eigan mir ginomanan lioban drulitin minan, Otfrid.*
 - 16) “ich bin gekommen, gegangen, geritten, gefahren, wenn es den erfolg, nicht die bewegende, anhaltende tätigkeit bezeichnet; der bereiter hat gut geritten, der kutfcher gut gefahren.” (Grimm 1898: 190)

- 17) ただし、Erben (1961: 39) は、状態動詞 (継続相の自動詞) がドイツ南部で *sein* と共に用いられる背景として、*sitzen* 'sit'、*liegen* 'lie'、*stehen* 'stand' が、今日でのシュバーベン方言と同様に完了相として用いられることを理由に挙げており、結果的には、継続相の動詞だから *sein* を使って完了形を作るという単純な対応関係に疑問を呈している。
- 18) (ibid.) „Wenn das Ziel der im Schwimmen gemachten Bewegung oder ihre Richtung ausgedrückt wird, so erfordert es das Hülfswort *seyn*.“
- 19) だからと言って、„Ich *bin* den ganzen Tag geschwommen.“ のような用例は記載されていない。
- 20) 南部では、*springen* と *hüpfen* が *sein* を選択する、との注意書きがある。
- 21) (ibid.) „Tritt jedoch ein Adverb wie *davon*, *heraus*, *hinein*, *weg* oder ein direktives Adverbiale hinzu, so erhält die gesamte Verbgruppe (mit angebundenem Adverbiale) transformativen Charakter, das Perfekt wird mit *sein* gebildet, und das Partizip II ist unter Hinzunahme des Adverbiales attribuierbar.“
- 22) 場所の副詞が入ることで、*haben* 選択に偏る可能性に関しては、以下の Duden Grammatik (2005) の所で触れる。
- 23) この類の動詞としては、*tanzen*、*schwimmen*、*hinken*、*joggen*、*klettern* を例として挙げているが、*joggen* は、たいていの場合、非完結的であるとしている。
- 24) (ibid.) „Der Sprachgebrauch schwankt jedoch in diesem Bereich. Bei den Bewegungsverben *klettern*, *schwimmen*, *joggen* beispielsweise neigen viele Sprecher unabhängig von der Aktionsart zur Perfektbildung mit *sein*.“
- 25) Aktionsart とは、アスペクトとは異なり、通常、動詞 (とその構成要素としての拘束形態素) に内在する「行為の様態」であり、文全体のアスペクトとは異なるが、Duden Grammatik (2005) の該当箇所では、この違いを意識しているようには思えない。
- 26) (ibid.) (ugs.) die Situation nicht [mehr] unter Kontrolle haben, ihr nicht [mehr] gewachsen sein, unsicher sein
- 27) 「2 時間の間」という継続時間表現は、ドイツ語の場合、*lang* 'long' をつけなくとも十分に可能であり、実際には、口語では、付けられない形が多用される。この検索フレーズを選ぶことで、前に前置詞 *in* の付く時間枠表現も同時に検索できた。
- 28) χ^2 検定では、この場合期待値が小さすぎるので、信頼できる検定にはならない。
- 29) R は、オープンソースで国際共同開発されている統計ソフトウェア。詳細は、

<http://www.r-project.org/>を参照。

- 30) *oft* を伴い完了の助動詞を含む全データは、62件だったが、方向を含むものが1件あり、この表からは除外してある。
- 31) Jackendoff (1990: 126) の例で言えば、Pete threw the ball. という文において、主語の Pete は、主題層では起点 (source) であるが、行為層では、行為者であり、目的語の the ball は、主題層では主題であり、行為層では、被行為者である。
- 32) 北部の低地ドイツ語では、今でもオランダ語と同様に動詞 *laufen* の完了形に *haben* が使われるという。Dieter Wunderlich との p. c. による。Wunderlich (1985: 184) 参照。
- 33) 状態動詞の中で、完了の助動詞に *sein* を選択するものがあるが (*sein*, *bleiben* と南部ドイツ語圏で使われる *sitzen*, *stehen*, *liegen* など)、それらの動詞の扱いに関しては、再検討しなければならない。
- 34) 意志性 (volitionality) との関係が問われるが、主語に意志性を持てる存在 (典型的には人間) が入り、意志を表現させるのためには、意志の助動詞 (*wollen*, *werden* など) を使うことにより、行為層の意味を「上に被せる」ことができ、その場合は文の意味構造は「二層的」になると考えられる。

参考文献

- Adelung, J. Ch. 1808. *Grammatisch-kritisches Wörterbuch der hochdeutschen Mundart*. (Leipzig 1774–86, 5 Bde.; 2. Aufl. 1793–1802, 4 Bde.) (Digitale Rekonstruktion der Ausgabe von 1808: Universitätsbibliothek Bielefeld).
- Abraham, W. 1990. *Ergativity and inchoativity*. In *Groninger Arbeiten zur Germanistischen Linguistik* 30, 127–143.
- Alexiadou, A. / E. Anagnostopoulou / M. Everaert (eds.) 2004. *The unaccusativity puzzle: explorations of the syntax-lexicon interface*. Oxford: Oxford University Press.
- Burzio, L. 1986. *Italian Syntax: A Government and Binding Approach*. Dordrecht: Reidel.
- Duden Grammatik 2005. *Duden Grammatik*. 7., völlig neu erarbeitete und erweiterte Auflage. Mannheim, Leipzig, Wien, Zürich: Dudenverlag.
- Duden Richtiges und gutes Deutsch⁵2005. *Duden Richtiges und gutes Deutsch*. Mannheim, Leipzig, Wien, Zürich: Dudenverlag.
- Erben, J. 1961. *Abriss der deutschen Grammatik*. vierte, neubearbeitete Auflage. Berlin: Akademie-Verlag.
- Fanselow, G. 1987. *Konfigurationsalität: Untersuchungen zur Universalgrammatik*

- am Beispiel des Deutschen*. Tübingen: Gunter Narr Verlag.
- Grimm, J. 1898. *Deutsche Grammatik*. Vierter Theil. Neuer Vermehrter Abdruck. C. Bertelsmann: Gütersloh.
- Grimm, J./W. Grimm 1984. (First edition 1899) *Deutsches Wörterbuch*. Band 15. Deutscher Taschenbuch Verlag GmbH & Co. KG: München.
- Grewendorf, G. 1988. *Aspekte der deutschen Syntax*. Tübingen: Gunter Narr Verlag.
- Grewendorf, G. 1989. *Ergativity in German*. Dordrecht: Foris.
- Haider, H. 1983. The case of German. *Groninger Arbeiten zur Germanistischen Linguistik* 22, 47-100.
- Haider, H. 1985. Von *sein* oder nicht *sein*: Zur Grammatik des Pronomens 'sich'. In Abraham, W. (ed.) *Erklärende Syntax des Deutschen*. Tübingen: Gunter Narr Verlag, 223-254.
- Haider, H. 1993. *Deutsche Syntax - generativ*. Tübingen: Gunter Narr Verlag.
- Jackendoff, R. 1990. *Semantic Structures*. Cambridge, Mass.: The MIT Press.
- Levin, B./Rappaport Hovav 1995. *Unaccusativity: at the syntax-lexical semantics interface*. Cambridge, Mass.: The MIT Press.
- McClure, W. 1990. A Lexical Semantic Explanation for Unaccusative Mismatches. In Dziwirek, K. / E. Mejias-Bikandi (eds.) *Grammatical Relations: A Cross-Theoretical Perspective*. Stanford, Ca.: CSLI.
- 岡本順治 1996. 「ドイツ語における移動様態動詞の特性: 結果構文の意味するもの」原口庄輔・鈴木英一編『文法と言語理論』、65-74.
- Paul, H. ³1962. *Kurze deutsche Grammatik: Auf Grund der fünfbandigen deutschen Grammatik*. Eingerichtet von Heinz Stolte. Dritte, verbesserte Auflage. Tübingen: Max Niemeyer Verlag.
- Perlmutter, D. N. 1978. Impersonal Passives and the Unaccusative Hypothesis. *Proceedings of the Berkeley Linguistic Society*. IV, 157-189.
- Vendler, Z. 1967. *Linguistics in Philosophy*. Ithaca, N. Y.: Cornell Univ. Press.
- Wunderlich, D. 1985. Über die Argumente des Verbs. In *Linguistische Berichte* 97, 183-227.
- 吉田光演 1999. 「動詞の項構造と完了助動詞 sein/haben の交替について」『広島ドイツ文学』13号, 29-44.
- Zaenen, A. 1993. Unaccusativity in Dutch: Integrating Syntax and Lexical Semantics. In Pustejovsky, J. (ed.) *Semantics and the Lexicon*. Dordrecht: Kluwer, 129-161.
- Zifonun, G./L. Hoffmann/B. Strecker 1997. *Grammatik der deutschen Sprache*.

Band 3. Berlin, New York: Walter de Gruyter.

二次文献

Clajus, Johannes 1578. *Grammatica Germanicae Linvae* [...] *Ex Bibliis Lutheri Germanicis et aliis eius Libris collecta*. Leipzig.

Fischart, Johan 1573. *Geschitklitterung*. (Gargantua).

Gottsched, Johann Christoph 1748. *Grundlegung einer deutschen Sprachkunst, nach den mustern der besten schriftsteller des vorigen und jetzigen jahrhunderts abgefasst*. Leipzig.

Göz, Johann (ed.) 1824. *eine auswahl für freunde der ältern vaterländischen dichtkunst*. Nürnberg.

Reichard, H. A. Ottkar (ed.) 1779. *Buch der Liebe*. Leipzig.

Reinicke Fuchs 1650. *Reinicke fuchs, das ist : ein sehr nützlich, lust- und sinn-reiches staatsbüchlein*. Rostock.

Sachs, Hans 1824. In Göz 1824.

Steinbach, Christoph Ernst 1734. *Vollständiges deutsches Wörter-Buch*. Breslau.

* 当論文は、2006年3月29日に、「*Ich bin früher viel geschwommen* : Ein winziges Beispiel für Sprachwandel.」というタイトルで「ドイツ語の話しことばに関する総合的研究」プロジェクト(学習院大学人文科学研究科、研究代表者：高田博行)のもとで開催されたコロキウム(2006年3月28日～29日)の口頭発表に基づき、加筆修正を加えたものである。当研究は、このプロジェクトの助成のもとに行なわれた。当日の招待講師であった Werner Kallmeyer 教授 (IDS) を初め、参加者からのさまざまな貴重な意見を頂いたことにこの場を借りてあらためて感謝したい。

(ドイツ文学科 教授)